

先天性サイトメガロウイルス感染症と聴覚障害

新生児聴覚スクリーニングで見つかる難聴児の中に、先天性サイトメガロウイルス感染が原因の症例が高い確率で含まれていることが報告されている。その実態、同症例に関する研究動向や課題について神戸大学医学部附属病院周産母子センター小児科の森岡一朗講師に聞いた。

神戸大学医学部附属病院
周産母子センター小児科

森岡 一朗講師



「先天性サイトメガロウイルス感染症は様々な神経学的障害を併発することが知られており、感音難聴は頻度の高い合併症の一つ。新生児聴覚スクリーニングで見つかる聴覚障害は1000人に1人ですが、そのうちの約20%がこの感染症

新生児聴覚スクリーニングで見つかる症例研究から

新生児・幼児難聴原因の約20% 無症候性や遅発性の発見に課題

例との報告があります」
サイトメガロウイルス（以下、CMV）感染は胎内感染するウイルス感染の中では最も頻度が高く、妊婦が初感染した場合に胎児感染を起す確率は40〜50%とされる。そのうちの15%は症候性で、何らかの症状を伴って生まれ、重度難聴が25〜30%に認められる。

一方で、出生時に症状がない無症候性でも、成長とともに6〜16%で進行性の聴覚障害が見つかるという。近年、日本では妊娠可能女性のCMV抗体保有率が低下。先天性CMV感染児の増加が懸念されており、神戸大学では胎児および新生児での診断・治療の可能性がある」と

「生まれた時に異常がなくとも乳幼児期に発症する遅発性発症のCMV難聴生児での診断・治療の可能性がある」と

「生きた時に異常がない増加が懸念されており、神戸大学では胎児および新生児での診断・治療の可能性がある」と

「生まれた時に異常がなくとも乳幼児期に発症する遅発性発症のCMV難聴生児での診断・治療の可能性がある」と

「生きた時に異常がない増加が懸念されており、神戸大学では胎児および新生児での診断・治療の可能性がある」と

「先天性サイトメガロウイルス感染症は様々な神経学的障害を併発することが知られており、感音難聴は頻度の高い合併症の一つ。新生児聴覚スクリーニングで見つかる聴覚障害は1000人に1人ですが、そのうちの約20%がこの感染症

「妊婦が妊娠中にCMV初感染した症例では胎児診断が可能になりつつありますが、再活性化で胎児感染したケースを把握するのは今年4月から、母子手帳に新生児聴覚スクリーニングに関する記載項目が加わった。これを契機に実施施設の増加が期待される。」

「難聴児の聴能訓練は発見されて6か月以内に開始するとそれ以降では、言語発達や総合的な発育にも差があるとされていますから、聴覚スクリーニングの普及と同時に、1歳半や3歳児健診で遅発性の難聴を見逃さないことが重要。将来的には分娩施設で退院までに代謝異常と聴覚、尿中CMVの新生児スクリーニングを併せて実施する体制作りも望まれます」

CMV感染に関する妊婦への啓発、カウンセリング体制の整備も課題だという。

1歳半、3歳児健診が重要に

「難聴児の聴能訓練は発見されて6か月以内に開始するとそれ以降では、言語発達や総合的な発育にも差があるとされていますから、聴覚スクリーニングの普及と同時に、1歳半や3歳児健診で遅発性の難聴を見逃さないことが重要。将来的には分娩施設で退院までに代謝異常と聴覚、尿中CMVの新生児スクリーニングを併せて実施する体制作りも望まれます」

CMV感染に関する妊婦への啓発、カウンセリング体制の整備も課題だという。